

データ活用の技術・演習問題解答

演習問題 1 解説

分析のカテゴリとなる項目が質的項目、
分析対象数量の項目が量的項目になります。(下の色分け参照)

				質的項目			
				量的項目 その他は、基本的に分析では使わない。			
No	項目の分類	項目名	項目タイプ	No	項目の分類	項目名	項目タイプ
1	JOB情報	JOBNo	数値	26	発注情報	発注書No	数値
2		JOB期間(開始)	日付	27		発注明細No	数値
3		JOB期間(終了)	日付	28		支払ステータス	文字
4		JOB担当者	文字	29		支払変更ステータス	文字
5	受注・売上情報	受注No	数値	30		発注件名	文字
6		主管部門	文字	31		発注担当者	文字
7		得意先	文字	32		発注部門	文字
8		受注件名	文字	33		発注費目	文字
9		受注担当者	文字	34		発注種別	文字
10		受注部門	文字	35		仕入先	文字
11		業務区分	数値	36		前渡金フラグ	文字
12		受注明細No	数値	37		勘定科目	文字
13		得意先納品予定日	日付	38		発注税コード	数値
14		得意先納品日	日付	39		発注通貨	文字
15		請求ステータス	文字	40		発注金額	数値
16		請求変更ステータス	文字	41		手数料額	数値
17		費目名称	文字	42	損益情報	利益額	数値
18		費目補助	文字	43		利益率	数値
19		種別	文字	44	会計情報	会計伝票番号	文字
20		受注税コード	数値	45		伝票タイプ	文字
21	受注通貨	文字	46	伝票日付		日付	
22	売上計上日	日付	47	原価センタ		文字	
23	受注金額	数値	48	会計費目	文字		
24	値引額	数値	※計算で求められる率を				
25	売上高	数値	数値項目として使うことはほとんどない。				

演習問題 2 解説

相関関係を調べるための項目を前述のデータから抜き出し、中間モデルを経由して分析用データモデルを作成するための手順を書き出す。

※発注金額=仕入額です。

手順の記述イメージは、以下の通り。

【分析手順】 売上と仕入の相関関係を調べる

1. 分析目標の設定

毎月の仕入先毎の仕入額が、毎月の売上に比例しているかを分析する。

2. 分析用データモデルの設定

年月	仕入先	仕入額	売上額	仕入額比率額
----	-----	-----	-----	--------

3. データをExcelで加工する

①月毎の売上額を集計

年月	売上額
----	-----

②月別仕入先別仕入額を集計

年月	仕入先	仕入額
----	-----	-----

③上記②のデータの後ろに売上額を結合（年月単位に結合）

年月	仕入先	仕入額	売上額
----	-----	-----	-----

④Excelマクロにて仕入額比率額（=仕入額／売上額）を算出

年月	仕入先	仕入額	売上額	仕入額比率額
----	-----	-----	-----	--------

4. Excelでグラフ化